

講師として URA 研究支援室 二歩裕氏をお招きし、全2回 (2015/12/3・12/7) にわたって開催された「申請書で伝える！あなたの研究」セミナー。前編は講義形式で、後編はグループワークを行いました。参加した2名のラーニング・アドバイザーが、各回の内容を報告します。

前編

二歩先生流 申請書を書くときのポイント

KOMINAMI 図書館情報メディア研究科

①誰が・どのように読むのかを考える

日本学術振興会特別研究員の場合、審査委員の先生方は非常にタイトなスケジュールの中で申請書を読んでいます。また、自分の研究に近い分野の先生に読んでもらえる可能性は低いいため、申請書の指示書きに従って、とにかくわかりやすく書きましょう。民間財団の場合は、助成プログラムの趣旨に研究内容が合致しているかが重要です。審査方法や対象分野については公募要項や過去の採択者リストなどを確認し、わからないことがあれば、電話やメールで問い合わせるのがいいでしょう。

②自分のスタイルを確立する

自分なりの手順とコツを見つけましょう。二歩先生の場合は、最初にとりあえず全部書いてみて、一時休止と推敲を繰り返すそうです。また、研究のタイトルは重要な判断材料となるため、キーワードを書き出して複数案作成すること。おススメの方法は、書く前に採択された申請書を集めること。忙しくとも毎週この時間には書く！という時間を作ること。書き終わったら必ず複数人（できれば分野外の人も含めて）に見せること。採択されるための魔法はありません！

③採択されなかったとき

自分なりのストレスケアの方法を見つけましょう。叫ぶ、冷却期間を置く、自分の申請書を読み直す、他の公募に出してみるなど、いろいろな方法があります。めげずに出し続けましょう。

後編

後編では、日本学術振興会特別研究員の申請書をモデルにし、研究計画の簡略版を作るトレーニングを体験しました。

まず、セミナー参加者には、①研究の背景、②研究の目的、③研究の方法、④研究の特色・独創的な点、⑤予想されるインパクトの5つの項目について、それぞれを1～2文にまとめる課題が出されました。その後、参加者は3～5人の班に分かれ、お互いの文章を読み合った後、意見交換を行いました。

班では、「方法は書いてあるが、一番重要な研究の意義が伝わらない」など率直で厳しいコメントが得られました。また、各班に現役の学振研究員の方にも参加していただき、経験者ならではの申請書作成における注意点や体験談についても伺うことができました。

班内の話し合いの後、セミナー参加者全体でも意見交換を行いました。初めて自分の研究内容を聞いてもらい、さらに研究内容を1文で伝える難しさについては、参加者が共通して困難を感じていたことがわかりました。URAの二歩先生、二階堂先生からは、「1文で自分の研究を伝えられるようにする作業は、最初は無茶のように思えるけれど、研究内容を簡潔かつ明確に伝える必要がある申請書を書く上では、重要なトレーニングであるため、今後の申請書作成でも役立ててほしい」とのアドバイスをいただきました。

グループワークの参加者からは、「実際に申請書を読んでいる方からのコメントが得られるので、参考になった」「他分野の申請書を読み、審査を行う側の大変さも理解できた」などのコメントが寄せられ、評価する側を意識した申請書の書き方の大切さについても認知するきっかけになったことがわかりました。



自分の研究を一文で伝えられるようにしよう！
KMI 人文社会科学研究科